

区分	意見内容	反映検討			備考
		①今回指標に追加	②今回文章中にコメント	③運用後適宜検討	
①生物多様性の健全性					
山	「竹林伐採」は、活動を広げやすい(団体間の連携を進めやすい)。R指標として伐採活動や伐採箇所数を集計することとなっているが、福岡市として情報を収集するとともに、プラットフォームから発信できるとよい。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないため、発信方法については今後の検討課題とする
	森林面積はただ面積を追うだけでなく、植生も把握するべきではないか。	○			5年に1回実施される自然環境調査の植生調査を活用し、植生区分ごとの面積を把握することとする
	森林面積は全体量でなく、人工林や原生林といった区分で把握することが必要である。	○			
	竹林伐採を行う場合は土地所有者の把握に努めることが重要である。また、市民活動の場所や伐採面積等、活動内容についてもしっかりと記録すること。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	森林保全に関しては行政から里山や竹林の土地所有者に対し主旨説明を行い、取組依頼を行うことが望ましい。指標として設定する以上、関心を持ってもらうことが必要である。			○	重要だが短期的な対応は難しいため、今後の検討課題とする
	林床植生や土壌への影響についても言及することが必要である。				
	多様な森づくり、という観点はやや欠けている。林床植生、景観等を意識した森林保全の在り方を言及してはどうか。			○	下層植生や土壌の重要性を文章中に文言追加
	多面的機能を意識した指標の策定も必要ではないか。			○	各エリアで現状を説明し課題の抽出を行うことで、着眼点に行き着くまでの唐突感を緩和させるよう工夫
川	例えば都市景観賞の中で生物多様性に関連するカテゴリを設けてもらい、田園風景や里山風景に価値を与えるというのも一つの手と考えられる。			○	重要だが現時点ではデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	R指標の中に市民協働があるが、活用状況を示す単位はどのようにするか。実施回数や登録数だけでなく、「人・日/年」等の活動量を示すことは出来ないか。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	目標に入っているエコトーンを指標する種を加えて頂きたい。水辺と陸域のエコトーンを指標する種は両生類が挙げられる。具体的には、アカガエル類(ニホンアカガエル、ヤマアカガエル)、カスミサンショウウオ等が候補として挙げられる。	○			アカガエル類・サンショウウオの指標を追加
	ゲンジボタルの保全活動は北九州市では盛んである。北九州のやり方を参考にしてみてもどうか。			○	「他都市の活動等も参考にしながら」という文言を追加
	ゲンジボタルは放流等で人工的に増加する可能性のある種であり、河川の水質を評価する生物として適切であるか疑問である。また、ホタルは水質だけでなく周辺の河辺林の状態も重要であるため、河辺林の長さ等を指標にするの			○	周辺環境の重要性について文章中に文言追加 現時点でデータが揃わないため、指標化については今後の検討課題とする
	「生きものマップ」は、どの河川にどのような淡水魚がいるか記録されている。このような河川全般を評価できる指標が一番望ましい。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	PHや電導度等の水質を指標としないのか。簡易版の水質調査キット等を活動団体に渡して調査してもらえば、普及啓発にもつながると考えられる。	○			河川水質・海域水質の指標を追加
	福岡市では護岸の実態調査は行っているか。横浜市等では、コンクリート護岸を親水性の護岸にする動きが活発である。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
海	河川は都市部を流れているものであり、河川の指標にはまちづくりの観点が必要である。			○	流域全体で評価する重要性を文章中に文言追加 指標化については今後の検討課題とする
	河川植生に関する指標が抜けている印象をもつ。堤外地の緑被率のモニタリング等、都市の自然地をどのように利用するかという観点が必要である。			○	都市の自然地の活用方法はため池の指標で担う 周辺樹林の重要性について文章内で記述
	山・川・海のつながりを意識し、流域全体を評価する指標を検討できないか。			○	流域全体で評価する重要性を川エリアの文章中に文言追加 現時点でデータが揃わないため、指標化については今後の検討課題とする
	藻場の面積を把握することも重要であるが、それ以外にも、干潟の面積や自然海岸距離等、干潮帯に関連する指標が必要と考えられる。			○	干潟の重要性について文章中に文言追加 現時点でデータが揃わないため、指標化については今後の検討課題とする
	「海岸清掃活動の推進」については、数値化できた方がよい			○	現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	博多湾の「シギ・チドリ類の渡来数」については、1回/年であっても一斉調査を行ったほうが良い。国際的なネットワークへの方向もイメージして、調査方法の統一、調査精度の向上を図る必要がある。			○	今後の検討課題とする
	海ガメ調査も実施する方が望ましい。例えば、WEBサイトで目撃情報を投稿する仕組みを作れないか。			○	市全域エリアの「希少種や上位種の保全」において、海ガメの目撃情報数等を把握することを今後検討する
	海では渡り鳥等、行動が広域にわたる種が多いため、位置づけを整理する必要がある。			○	エリアの現状を説明する部分において、渡り鳥等の位置づけを再整理
都市部	海エリアの目標には、漁業の観点からも「持続可能な利用(サステイナブル・ユース)を入れたほうが良い。			○	海エリアの目標に「持続可能な利用」の文言追加
	目標→指標(状態、取組)の間に入る説明がないため、現在の構成では全体の流れを理解しづらい 例えば、海には藻場のほか干潟や岩礁帯もあるが、今回は藻場のみを取り上げていることに唐突感を覚える。全体の場を網羅した説明があり、なぜ今回の指標に着目したかをわかりやすく説明する必要がある。			○	各エリアで現状を説明し課題の抽出を行うことで、着眼点に行き着くまでの唐突感を緩和させるよう工夫
	定点を設置して、当該地区での確認種数を継続的に観察してみてもどうか。その際、調査に市民を活用することが考えられる。			○	「市全域」の希少種や上位種の確認種数の方法として今後検討する
	ヒートアイランドを評価するためには、市内に複数の定点観測所を設けて緑地との気温差を把握する必要がある。			○	現時点でデータが揃わないため、気象庁公表の定点データを用いる
	風の道、コリドーの確保といった考え方をもち、行政の立場から大規模な工場や学校施設内での緑化を促すことが必要である。			○	重要だが短期的な対応は難しいため指標化は行わず、「新・緑の基本計画」に記載されている「緑の骨格」の考え方を文章中に記載
	特別緑地保全地区等の面積の把握も重要であるが、そもそも福岡市の指定状況は他地域に比べてトップクラスであり、今後大幅な増加は見込めない。一方で市民緑化活動は他地域に比べて活発でない現状があることから、市民活動による緑化面積を指標にすることを検討出来ないか。それが可能になれば、民有林等の多様な自然を含む指標となりうる。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	緑化活動団体数というのも指標の1つとして考えられる。その場合、可能な限り活動内容をカテゴリで分け、市民の興味のトレンドを把握することも重要である。			○	現時点で指標化することは困難であるため、NPO団体の活動内容の傾向把握に努める
	中長期的な課題ではあるが、都市計画との連動を意識した指標を策定することが望まれる。			○	重要だが短期的な対応は難しいため、今後の検討課題とする

区分	意見内容	反映検討			備考
		①今回指標に追加	②今回文章中にコメント	③運用後適宜検討	
その他	「その他」は違和感があるので、「市全域」とした方が良い	○			「その他」を「市全域」に修正
	希少種や上位性種から見た生物多様性の健全性評価を加えて欲しい。具体的な種については、時代の変化と共に変わっていくものなので、現時点で種名まで確定させる必要はない。	○			希少種や上位種の確認数を指標として追加
	外来種や希少種以外に、近年増加が問題となっているシカやイノシシについても、指標として加えることが望ましい。	○			市の鳥獣被害額は数値として把握しているものの、公表するにあたっては関係団体内で協議が必要となるため現時点で指標化は困難
	カーテンプロジェクトのほかに、グリーンコリドーを盛り込むことが望ましい。			○	今後の検討課題とする 重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	遺伝子保全の視点をどこかに入れるべきではないか？	○			代表的な希少種を対象とした指標を追加
	S指標については、希少種、上位種等の特徴的な生きものを指標とすることが考えられる。	○			希少種や上位種の確認数を指標として追加
	外来種については、セアカゴケグモ以外に何か考えられないか。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	ため池内にどのような生物種がいるのか、どのような利用がなされているのか等、出来る限り現状把握に努めること。			○	市民参加型の環境調査の項目として今後検討していく
森林やため池などは、開発規制のかかっている場所と規制外の場所にあるものでは、その生物生息状況も異なると考えられることから、調査にあたっては考慮すべきである。			○	今後調査が実施された場合はご意見の内容を考慮する	
②生態系サービス					
調整	「猛暑日数」だけでは足りない気がする。例えば、「時間当りの降水量」や「積雪量」等を指標に加えてはどうか。	○			1時間あたりの最大雨量と水害被害発生数を指標として追加
供給	「生産額」ではなく「物量」を評価してはどうか？ 温室栽培ではなく、露地栽培のものを評価すべき。	○			売上量や漁獲量の数値を指標として追加 重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	沿岸漁獲高生産量については、養殖は入っていないか確認が必要。これも、物量タームで見た方がよい。	○			漁獲量の数値を指標として追加 養殖の量の把握は困難であるため、指標化については今後の検討課題とする
	農産物のみを対象としているイメージだが、林産物は対象に加えなくとも良いのか？森林の林齢別の割合等は出せないか？			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	水使用量はどうか？福岡市が生産している水の量の算定は困難でも、外部から導入・利用している水使用量の算定は可能では。			○	市民1人が利用している水の量は把握可能だが、対策につながりにくい部分があり、指標化については今後の検討課題とする
	供給サービスの燃料にバイオマスを加えるのが良いのではないか。現在のサービスは受け取る内容ばかりであり、積極的に保全する内容が入っていない。例えば、ごみの堆肥化による農地還元で継続的に供給サービスを受けることができたり、焼却施設におけるエネルギー生産により都市部の環境負荷を軽減したり、生態系の劣化防止に対する対策を指標に加えることができないか。			○	自然への還元の重要性について文章中に文言追加 重要だが現時点でデータが揃わないため、指標化にすることは今後の検討課題とする
	「保全を理解して行動する市民」の指標として、下記はどうか。 有機農産物の販売金額の推移等は指標になるのではないか。 生物多様性に配慮した店舗の出店数等が把握可能なら指標になるのでは。			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	「余暇の過ごし方」として、ハイキングやキャンプ場利用数、市民農園の待ち人数・抽選の倍率等は指標として把握しやすいのではないか。	○			文化的サービスの「レクリエーション施設等の利用状況」で、市民農園の利用者数の評価を検討する
	生物多様性に関連した番組の放映時間数(地元NHK対象) 生物多様性に関連したボランティアや市民サポーター数(1回/5年程度)			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	「都市景観形成地区」の表現だけでなく内容がピンと来ないので、生物多様性の恩恵を受けた社寺林等も含んでいること等を補足説明した方がよい		○		文章中に文言追加
	レクリエーション施設の扱いについては、動物園、青少年科学館、博物館等も対象候補に加えてはどうか		○		動物園等の利用者数を評価することを検討する
自然をテーマとした写真展覧数 市民ホール等における生物多様性関連イベント数			○	重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする	
レクリエーション施設については、福岡市は動物園を運営しているので、そういう施設への入場者数でも良いだろう。		○		動物園等の利用者数を評価することを検討する	
都市景観ももちろん重要であるが、里山風景等の文化的景観の保全に努めて欲しい。たとえば文化庁が指定している重要文化的景観のような仕組みを市内で検討・実施できないか。			○	重要だが短期的な対応は難しいため、今後の検討課題とする	
文化的サービスの指標は都市景観形成地区の指定状況となっているか、生物多様性景観を表彰する仕組みができないか。都市景観室と連携してはどうか			○	庁内で今後検討を進める	
文化的サービスについては、指標として弱い。プラットフォームをベースとした講座開設によって知識を提供(サービス)できれば、そのことが指標になるのではないか。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないため、指標として設定することは困難であり、今後の検討課題とする	
③市民意識の啓発と多様な主体の連携					
啓発・連携	次世代を担う子供たちへの環境教育は非常に重要な項目なので、何らかの形で盛り込んで頂きたい。4番目の項目として独立させても良いが、今の流れで普及啓発等に入れ込んで良い。学校での環境教育の取り組み状況等を指標にすると良いかもしれない。	○			環境関連総合学習の実施校数を指標として追加
	「市民からの情報の集積・データベースの構築」について追加して欲しい。集まってきたデータをどう処理して評価していくのか、どうやって課題を整理していくのか、その役割を担うのは誰なのかを具体的にイメージして置かないと、せっかく素晴らしい指標を作っても絵に描いた餅になってしまう。			○	重要だが短期的な対応は難しいため、今後の検討課題とする
	市民啓発としては、博物館や少年自然の家等でのイベントの参加者数等を指標にできないか？			○	文化的サービスでレクリエーション施設等の利用者数を指標としており、その代表施設として博物館や少年自然の家を選択するか検討する
	環境教育的な視点、小学校の総合学習を活用した指標等を加えて欲しい。学校給食における食育的な視点として、米食の割合、郷土料理の提供割合等を加えてはどうか？	○			環境関連総合学習の実施校数を指標として追加 重要だが現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	西日本新聞等の大手新聞社を対象として、「生物多様性」等のキーワードで検索できる記事数等を指標にしてはどうか。市民意識の指標になりうるのではないか。			○	可能ではあるが、社会情勢に大きく左右されるものであるため評価が難しいと考える
	市民意識の啓発が非常に重要である。意識啓発を進め、その成果が健全性、生態系サービスに跳ね返るようになることが求められる。			○	「啓発と連携」を別立てして指標を設定することで、第一目標である「生物多様性の社会への浸透」を目指す
	「生物多様性を理解し」とあるが、概念を理解するだけでは駄目である。経験、体験により生物多様性を「感じる」ことが大事である。			○	経験や体験を促し、第一目標である生物多様性の社会への浸透を目指した取組を進める
	意識啓発と連携には、「プラットフォーム」がキーになる。プラットフォームが自然保護、生物多様性に関わる団体の交流の場となることが望まれる。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないため、内容については今後の検討課題であるが、多様な主体との交流・連携の場という役割を意識する
	啓発・連携の指標として、教育の視点が欠けているきらいがある。小中学校での環境教育の実施件数を指標化することが考えられる(ビオトープ、屋上緑化、壁面緑化等)。	○			環境関連総合学習の実施校数を指標として追加
	市民の意識変化をモニタリングする指標が少ないため、ふくおか戦略の策定時に実施したアンケートを活用し、市民の生物多様性に対する満足度等の指標を設けることを検討すること。			○	アンケートの継続的な実施について今後検討する
	プラットフォームの規模が大きくなると、特定の団体が主体となることに異論が出るのが考えられるので、運営の仕組みを考える必要がある。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく

区分	意見内容	反映検討			備考
		①今回指標に追加	②今回文章中にコメント	③運用後適宜検討	
	プラットフォームの役割として、NPO団体等の人材育成という観点も必要である			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
	プラットフォームの取り組みとして、例えば年1回の定期的な集まりやレポートの作成、専門家とNPO団体等との共同による調査などを盛り込んだ方がよい			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
	情報発信拠点としてプラットフォームに依拠しているが、プラットフォームにどう具体性を持たせていくかが、かなめとなる。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
	プラットフォームの存在を広く人知ってもらうため、メディアの活用は重要になる。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
	「福岡市のための」というより、「福岡市が九州のために何が出来るか」という観点で、プラットフォームがイベントやツアー等を企画することも考えられる。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
	リタイアした大学教員や中高校の教員が持つ知識やノウハウを引き出す仕組みとして、プラットフォームが活用できると良い。			○	プラットフォームの内容はまだ具体的に決まっていないが、ご意見を踏まえてあり方を検討していく
④指標全般					
	県が行っている農地や水田の生き物調査結果等の活用はできないか？また、野鳥の会等、継続的にデータを取っているNPOとの協力はできないか？			○	NPO等との連携を意識し、データの活用等については今後の検討課題とする
	「指標をどのように活用するのか」といった視点が必要。指標を通じた市民への生物多様性の啓発、施策への反映のほか、何か市の具体的な将来施策とリンクさせた考え方はできないか？今回の指標を有効に活用すべき。			○	今後の指標の利用方法については、庁内で意見を出し合い今後検討を進めていく
	今後、指標を取った後にどう活かすか、指標の使い方を明確にする必要がある。			○	今後の指標の利用方法については、庁内で意見を出し合い今後検討を進めていく
	アンケートは、市政モニターアンケートということで5年に1回程度とのことだが、生物多様性に関する意識調査を新たに実施してはどうか。			○	アンケートの継続的な実施について今後検討する
	福岡市の特徴として、干潟、海、山といった様々な場があることから、垂直分布の調査を実施するのも面白いと考える。			○	現時点でデータが揃わないため、今後の検討課題とする
	ふくおか戦略との整合性を再度チェックすること		○		戦略内に示されている市の特徴や課題をエリアごとの現状として整理し、整合性を図るよう努めた最終的に再度チェックを行う
	指標の主体に「事業者」を加えること。		○		表現の一部を修正
	SとRの指標に乖離が見られ、両者の関係性が理解しづらい部分が見受けられる(S指標が絞られすぎており、全体のバランスがやや悪い印象を受ける)。指標とするには様々な制限があることは承知しているが、そうである場合は、今回の指標策定のスタンスを明記し、次の指標改訂を見据えた考え方を示すことも必要ではないか。		○		見直しの余地がある旨を文章中に記載
	福岡市内の災害数は少ないかも知れないが、ソフト面からのリスクマネジメント、安心・安全のまちづくりの観点が必要ではないか。		○		生態系サービスの劣化が災害につながるという考え方を文章中に記載
	市民参加の調査を考えるなら、最初から誰が調査を行うかを想定しておいた方がよい。やる気と能力のある人を担当者に選定することが重要である。また、専門家と調査方法を検討する際には、調査に参加する人が飽きずに参加できる方法を考えることも必要である。			○	市民調査を実施する際はご意見を踏まえ、あり方を検討していく
	資料全体として文字が多いので、地図や図面等を入れて、ぱっと見たときに直感的にわかるよう、わかりやすいまとめに留意が必要		○		生物多様性ふくおか戦略との関係性や指標の役割を整理する資料を作成・追加
	DPSIRのイメージ図には、一般的な文言が入っているが、誤解を受ける内容が多いので、具体的な指標に基づき例示する形で示した方がよい		○		誤解の与えないよう図内の文言を見直し、一部修正を行った
	これまで、数々の調査で、データクレジットに関するトラブルを経験してきた。取得したデータを、互いに気持ちよく利用できるシステムを作れるかどうかのポイントとなる。写真やデータの知的所有権は非常に重要な問題であり、はじめに書面で確認するなどしっかりした対応が必要である。			○	NPO団体や研究機関等と連携を図る際には、十分留意する